

2019 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770900856		
法人名	医療法人杏仁会		
事業所名	グループホームブルーベリー		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	高槻市東和町57-1		
自己評価作成日	2020年 1月 16日	評価結果市町村受理日	2020年3月2日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

[http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2770900856-00&ServiceCd=320](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2770900856-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)		
訪問調査日	2020年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・献立を決め、買い物、調理を行っている。
- ・庭には畑があり、収穫した物は食卓に並んでいる。
- ・買い物、散歩、庭、畑いじり等、外へ出る機会が多い。
- ・敷地内には老健、居宅事業所、隣接してクリニック、デンタルクリニック、認定こども園がある。
- ・夜間入浴を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とし平成10年10月に高槻市のモデルケースとして開設した1ユニットのグループホームです。ホームの周辺は緑豊かな田園風景が残る住宅街にあります。認定こども園や医院、歯科クリニック等も隣接しています。ホームの建物は木造の平屋で広々とした庭もあります。利用者は花・野菜を植えて水やりをしたり、朝、夕の食材の買い出し、食事の準備や後かたづけ等一人一人が出来ることを役割分担し助けあって、生活しています。法人の理念である「輝いて共に生きる」を基にホームの理念を「ゆっくり一緒に楽しむ」と掲げ、管理者、職員は自然に笑いがおこる家を目指しています。利用者、職員が互いを思いやり気づかいながら生活している様子はグループホームの原点である家庭を彷彿させ今後も期待できるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「輝いて共に生きる」を基に、「ゆっくり一緒に楽しむ」をホームの理念として掲げ、日々ケアに取り組んでいる。	管理者、職員は理念をホームの運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。行事や全体会議の場では理事長より理念についての話が常にあります。法人理念を基に「ゆっくり一緒に楽しむ」をホームの理念とし事務所内に掲示して共有しています。日々の生活のなかで、職員と利用者が一緒に役割を持ち助け合うことで実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日スーパーで買い物をしたり、散歩に出かけたりしている。 こども園、小学校や中学校との交流もあり、体育祭や文化祭も見学したり、法人のお祭りや花火大会には参加して頂いたりしている。	ホームは自治会には参加していませんが、隣接するこども園の月1回の来訪や地域の小学校、中学校の文化祭、運動会には出向き交流を図っています。法人全体のお祭りや花火大会等の行事には地域の住民も参加しています。又、ホームの庭で育てている新種のバラを見に近隣の人が訪れたり、敷地内でタコあげをしている親子があったりと地域に開かれたホームです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でお話しさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた意見はスタッフと話し合い、運営者にも報告し、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1回、定期的開催しています。参加者は市職員、民生委員、地域住民、家族、利用者、管理者、職員等で構成しています。会議では主にホームの状況や利用者の様子や行事を報告、時にはホームが対応に悩んでいる事例をあげ、助言をもらったりと双方向的な会議になるよう努めています。会議の内容は議事録を回覧し全職員へ周知しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方には、電話や会議の場で相談したり、報告をしている。	市の担当者とは市へ報告するような大きな事故等ない為運営推進会議を通しての関わりに留まっています。今後、管理者は運営上の疑問点や課題についての相談や情報交換を積極的に行い協力関係を築きたいと思っています。	市の担当者によりよい協力関係を築くことで、今以上に実践現場と施策の整合性が図れることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム開設から身体拘束はしておらず、原則禁止行為であると言う事は全スタッフに周知できている。 勉強会にも参加している。	開設当初より現在まで身体拘束の事例はありません。管理者、職員の身体拘束禁止への意識は高く、法人主催の身体拘束に関する勉強会には職員は毎年参加しています。日中は玄関の鍵は掛けておらず、出入りは自由な状態ですが、玄関の横に事務所の窓口があり、人の出入りは分かるようになっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にも参加し、虐待について学んでいる。ホーム内だけでなく、ご自宅、ご家族様に対しても注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに成年後見制度を利用された方はいませんが、勉強会に参加したり、地域包括支援センターから情報を得たりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には見学して頂いて説明をしており、十分理解、納得した上で契約締結している。解約の際も話し合いの場を持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議で外部者へ表せる機会を作っている。 又、意見は運営に反映する様、努力している。	家族が意見を述べる機会は運営推進会議や年2回開催している家族会、サービス担当者会議等があります。普段より面会の家族に職員は積極的に話かけ交流を図り意見が出やすい雰囲気づくりに努めています。玄関入り口には意見箱も設置しています。家族からホーム玄関前の砂利道が歩きにくいとの意見が有り、砂利が取り除かれました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス、起案書等により、提案を聞く機会を設けている。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを大切に何でも言い合える関係性を作るよう努力しています。年2回の管理者や法人代表者との面接では、法人を発展させる為の意見を募っています。ホームでは行事ミーティングやカンファレンスを通し職員の意見や提案を聞いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が生き生きとやりがいを持って仕事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの段階に応じた外部研修を受講できる体制を整え、法人内でも毎月研修を行っている。 研修に参加できなかった者に対し、伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高槻市介護保険事業者協議会に加入し、事業者が連携して勉強会等を開催し、よりよいサービスを提供できるように取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と向き合い、じっくりと話を聞くことを心掛けています。ブルーベリーではほぼ毎日買い物に行っており、その道中は密にゆっくり話せる時間です。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族会を年に2回開催して、交流を深めている。 また連絡を取り合い、ご家族様の話の聞いたり、こちらでのご本人様の様子を伝えたりし、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インフォーマルなサービスを使い、地域の方々との交流を図っている。(夏祭りや地域の中学校の文化祭や運動会に行く)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を持ち、わからないことを相談している。 特にブルーベリーでは料理等、先人の知恵を拝借させていただく機会が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とも十分なコミュニケーションを図り、同じ思いでご本人様を支援していく関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にも協力していただき、ご近所の方、知人の方に面会に来ていただいたり、外出、外泊したりする事も勧めている。	管理者、職員は入居後もこれまでの生活習慣を大事に考え、家族の協力をえて外出や外泊を奨励しています。入居前より利用していた美容室に出かけたり、馴染みの喫茶店でコーヒーを飲んだり、音楽会や野球観戦に出かけたりと入居後も楽しみながら生活が送れるよう支援しています。又、友人の面会もあり交流が続いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握している。 利用者孤立した場合、口論になった場合はスタッフが間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても面会に行ったり、ホームに遊びに来て頂いたりして、御近所の方として、関係が続いている。又、相談を受けた際、誠意をもって答えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1で話せる機会を設けている。 その時に話された事をケアプランにも繋げている。	管理者や職員は日頃から、利用者一人一人と1対1で話が出来る機会を大切にしています。利用者が何を必要としているか、生活の中での思いや、意向を把握し介護記録に残し職員間で共有、介護計画に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様、本人、ケアマネジャーより、情報収集している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行い、その日の状態を確認している。 毎日の申し送りでスタッフが共有し、月1回モニタリングも行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の意見を尊重し、ご家族様、スタッフで話し合い、計画を立てている。	介護計画は6か月に1回定期的に見直しを行っています。日々の介護記録や申し送りで得た情報、カンファレンスでの意見を基に毎月担当者はモニタリングを実施しています。利用者や家族、職員等の参加でサービス担当者会議を開き介護計画書の見直しに繋がっています。介護計画書はとて具体的で誰がみても分かりやすい言葉で書かれ、利用者、家族の意向が盛り込まれています。必要時にはその都度見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は分かりやすく簡潔に書くよう心掛け、毎日の申し送りで情報を共有し実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援が提供できるよう、スタッフ間でのミーティング、ゆとりをもった人員配置で臨機応変に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や法人内にも協力を得て、安全・安楽・安心な生活ができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診がある。 また、必要に応じ敷地内のクリニック、歯科クリニックであれば受診への付き添いも行っている。	隣接した同法人の敷地内に、病院、歯科医院があり、月2回の定期的な往診と、必要に応じて付き添いで受診をしています。医師との距離も近く、相談と連携ができる安心感があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ毎日、看護師が出勤している為、ある程度の状態は把握している。 また、24時間オンコールになっており、適切な看護が受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、ケースワーカーにすぐ連絡を取り、必要な情報提供を行っている。 法人内スタッフが定期的に病院を回り、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人、家族等と話し合い、希望された病院や施設等を案内している。	重度化と終末期においては、本人、家族と相談し、希望を伺い、病院を紹介しています。 ホームでの生活が困難になった場合でも、同法人の老人保健施設を紹介するなどしていますが、今後は、ホームでの重度化・看取りを行っていく方向で、体制を整えていく予定があります。	今後、重度化と終末期において、医療と介護の連携を図ることで、慣れた施設で、顔なじみの職員の介護を受け、本人・家族も安心して相談することができ、穏やかな終末期を迎えられることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会への参加、伝達研修を行っている。 敷地内には、かかりつけ医が居る為、すぐに連絡を取り指示を仰ぐ等の対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会より、協力体制の契約は結べないとの事であるが、地域との良好な関係は築いている。 また、ホームで年2回、法人内で年2回の計4回消防避難訓練を行っている。	6ヶ月毎に避難訓練、消防訓練が行われています。災害発生時マニュアルは「発生直後の応急対策」として、建物、人、地域社会との連携、また「3日め以降」の物資、健康管理、復旧、職員と地域の人のケア等、詳細な内容になっています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、その人その人にあった丁寧で分かりやすい言葉かけを心掛けている。	人格尊重とプライバシー保護の勉強会をマニュアルに添って行っています。守秘義務、個人情報、情報の管理、開示、訂正、廃棄について、スタッフの責任と本人・家族の信頼関係を失わないよう、細心の注意を持って行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の献立決めや、余暇の過ごし方等、自己決定できるよう言葉かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望された事ができる様、努力している。 スタッフだけでは困難な事はご家族様にも協力して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には更衣をし、髪をとかず等の支援をしている。 また、外出時は希望に応じてお化粧品のお手伝いもしている。 敷地内には訪問美容があり、カットやカラーもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日献立を決め買い物に行き、調理、片付けと一緒にやっている。	キッチンホールは並びにあって、食事の準備が始まると、利用者が自然に手伝い、職員と共に材料を切り、調理をしています。配膳も行い、片付けは、一人ひとりが流しの前のテーブルに運んでいます。食事は、懐メロを聞きながら、利用者と職員と一緒に、和やかに話しながら摂っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好品や習慣等、入居時に尋ねている。毎日の摂取量も記録し、必要であれば法人内の管理栄養士に相談している。 一人一人の食べられる量も把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にはハミガキをする様に支援している。 週2回義歯洗浄剤につけ清潔に努めている。 年一回、市が行っている無料検診に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行かれた際には、パンツやパットのチェックを行ったり、使用時間を確認したりして、排泄パターンや方法を把握している。	車椅子の人ではなく、杖歩行や自力歩行で、トイレで排泄をしています。トイレ使用時には、職員同士が静かに合図をして、パッドなどを持ちさりげなく介助をしています。排泄チェック表で、排泄内容やパターンを把握していて、トイレでの自立した排泄支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を取り入れたり、お米にもち麦をまぜたり、毎朝バナナを食べたりしている。運動をし、予防に努めている。また、内服薬で予防もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間入浴を行っている。 入浴するかしないかは、一人一人に尋ねており、最低でも週2回以上は入浴できるよう支援している。	本人の希望に合わせて、夕方から夜にかけて入浴介助をしています。利用者は、寝前にお風呂に入ることができて体が温まり、良く寝られると言います。毎日常入る人もあります。一般的な家庭と同じ浴槽で入浴支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中であっても、その時の状態に応じ居室で休んで頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイルしてあり、いつでも見られるようにしている。 薬に変更があった際、申し送りでスタッフに周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力に合わせ役割を持って頂いている。 楽しみごとや気分転換の方法は個々によって違うことから、個別に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	「今すぐ出かけたい」と言われれば、希望に沿えない時もあるが、出来る限り沿うように努めている。 墓参りや外食、デパート等、ご家族にお願いすることもある。	買い物のチェック、外出チェック表があり、外出の頻度が把握されています。できるだけ希望に添って外出ができるように支援しています。帰郷やお墓参りなど、遠方への外出は、家族にお願いして協力を得ています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお金をお預かりしていて、どの程度であれば使用してよいか入居時に確認している。高額な物が欲しいと言われた時や必要性に迷った際はご家族様に連絡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話を使って頂いて良い事としている。 ハガキ等を郵便局へ一緒に買いに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目で見てそこが何をする場所なのか分かるように張り紙をしたり、トイレは24時間電気をつけたままにしたりしている。	ホールの近くにある、居室、トイレ、浴室、スタッフルームのドアには、名前などを書いた木の手作りボードを掛けて、利用者にも分かりやすいようにしています。ホールの隅には、大きなテレビとそれを囲むソファが三台あり、大勢が共に楽しめています。サッシ戸からは、直ぐ外に出られ、花や木の葉など採り、ホールに生けています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名で話ができるようソファを配置したり、庭に向けて椅子を配置したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンとカーテン以外は全て持ち込みになっており、使い慣れた家具を持ってきて頂くようお願いしている。	居室には、それぞれ個人が使っていた、ベッド、寝具、家具などがあり、住み慣れた『私の部屋』となっています。どの部屋にも明るい光が差し込み、壁紙も好みに合わせて貼られ、各部屋の雰囲気づくりに利用者の個性が尊重されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には表札をたて、トイレやスタッフルームの前にも掲示している。 居室から一歩出れば共有空間があり、安心感もある。		